



# 長崎大学学報

〈トピックス〉

第656号

平成16年度長崎大学入学式挙行

幕末・明治期 日本古写真コレクション



日本レトロフォーカス(14) - 愛宕山と茂木街道 -

5

平成16年

## 表紙写真説明

### 日本レトロフォーカス<sup>(14)</sup> - 愛宕山と茂木街道 -

長崎大学附属図書館所蔵

写真 [ 107 - 12 ]

サイズ：縦20.0cm × 横25.7cm

モノクロに彩色

長崎でもっとも長崎らしいところをあげるなら、この茂木街道の坂道はまちがいなく3本の指に入るだろう。バスに乗って茂木へと向かう途中、この愛宕山のすそ野上小島から上へ上へと登っていくと、密集した家屋を見上げることになる。

すそ野から山頂へとびっしり重なる家々は壮観である。現在は山の上に観光旅館「矢太樓」が建っているが、こんな風景は日本でもめったに見ることはできないだろう。

この写真は、田上側から撮影された昔の愛宕山の風景である。場所は現在の愛宕3丁目と4丁目の間である。にゅっと頭を持ち上げたような姿はユーモラスでもある。山頂には愛宕大権現の上宮が祀られている。『長崎名勝図絵』には樹木に覆われた山のかたちが描かれているが、写真ではすでに段々畑が山の中腹まで開墾されている様子が写っている。道路には人力車を引いた車夫と子守の娘とがモデルになって写っている。

あたごのやまから、風もらおー  
いーんま 風もどそー

こんなわらべうたが聞こえてきそうな写真である。

明治18年(1885)に田上方面への広い道路が作られた。しかしこの坂道は相当急な坂道であるから、馬車も人力車もさぞや辛い道であったはずである。撮影時期は明治22年～30年ごろと思われる。根拠は、このアルバムに収まる他の写真の撮影年代がほぼ揃っているからである。

坂を登ると田上峠に出る。そこから茂木へと下り、船で対岸の宇土や天草へと航路が開けていた。去来の「入長崎記」には「沖はしる舟の上に帆たけ山は見ゆらんと思ふ物から、愛宕といふ名の恋しく成りぬ。ぴんとく坂は田別当にかよひて、肥後・さつまの旅人をすすむ。」と記している。

またこの愛宕山は 長崎八景 の一つで、「愛宕暮雪」の景として知られる。次の詩は唐通事として有名な林道栄(1640 - 1708)の作である。

#### 愛宕暮雪

聞道乾坤籠白鷗	聞道(いふ)ならく乾坤白鷗(しらきじ)を籠むと
看来方覺是神寰	看来に方(まさ)に覺ゆ是れ神寰かと
渾疑名月忘帰窟	渾(す)べて疑ふ名月窟に帰ることを忘るるか
錯認寒雲懶出山	錯(あやま)り認む寒雲山を出るに懶(ものう)しと
朝不望兮暮露影	朝には望まず暮に影を露(あらは)し
花無香也玉聯顔	花には香り無きや玉顔を聯ぬ
時移摩詰江天画	時に移す摩詰江天の画
懸取崎陽愛宕間	懸け取る崎陽愛宕の間

#### 表紙

サイズ：縦27.2cm × 横35.2cm。

台紙：24枚、写真48葉。茂木街道の竹藪、諏訪神社など、長崎の風景12枚ほどの他、大阪・横浜・東京など各地の名所・旧跡の写真を多数収める。この表紙には桜の図柄の上に、菊・桐・葵の紋章が金漆で描かれ、「ニコライ、エミリウィツ、ミーギン」と署名されている。皇族ロシア人の持物であった。

# 長崎大学学報

平成16年5月1日 第656号

## 編集発行

長崎大学総務部総務課

〒852 8521 長崎市文教町1番14号

☎ (095) 819 - 2014

\* この学報は再生紙を使用しています。